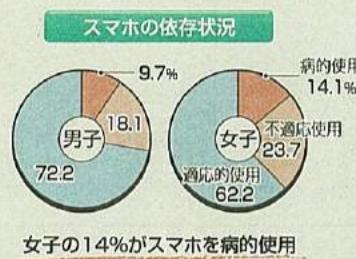
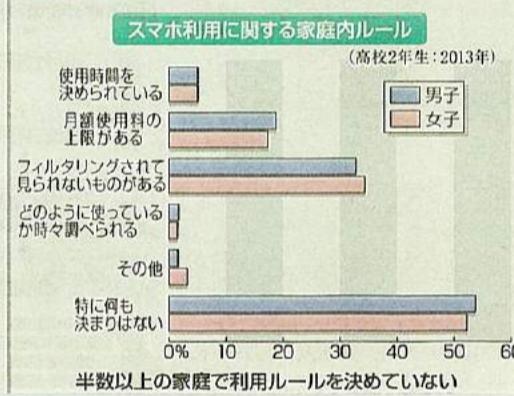
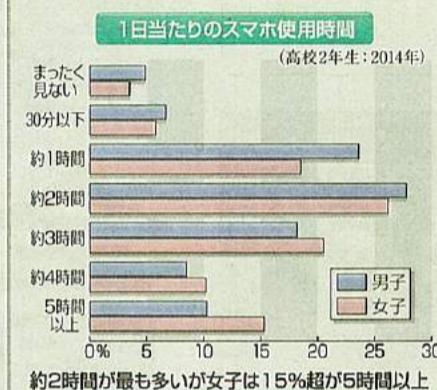
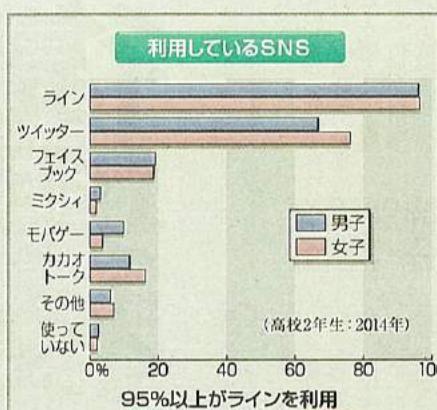


全国高校PTA連合会大会 岩手大会

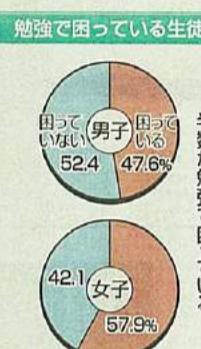
高校生を取り巻く現状

勉強



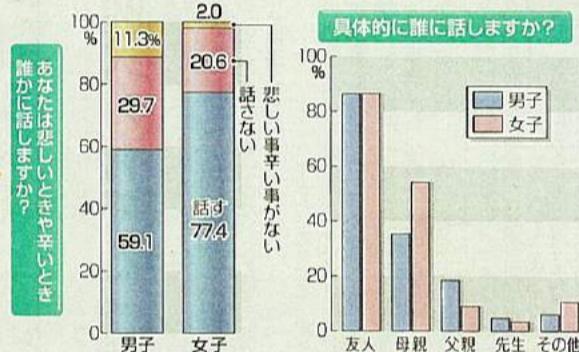
- 母親との関係に満足していない生徒のスマートフォン依存は9倍
- 親との会話が少ない生徒のスマートフォン依存は3~4倍
- スマートフォンにはまるほど学力は低下する(2倍)

希薄なつながり



- 生徒自身の精神力/精神状態・能力について(36%)
やる気が出ない(452人)
集中力が続かない(195人)
成績が悪い・頭が悪い(302人)
- 学習方法/学習時間/学習環境について(29%)
勉強のやり方がわからない(476人)
勉強時間がとれない(160人)
部活との両立ができない(41人)
家で勉強できない(61人)
- わからない・ついていけないなどについて(26%)
勉強・授業についていけない(346人)
数学がわからない(187人)
英語がわからない(149人)
- 受験・進路について(5%)
進路が決まらない(80人)
受験勉強は何をすればよいのかわからない(69人)
- その他(4%)
何がわからないかわからない(20人)

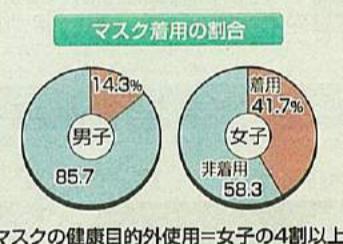
悩み



- 相談しない群(61%)
・言うのが面倒だから
・自分で解決するから
・必要なときに
・バーチャルな人間
- 相談したくない群(13%)
・言いたくないから
・弱みを見せたくないから
・明るい話をしたいから
- 相談できない群(16%)
・相談相手がないから
・言いにくから
・相談してもわからないから
・恥ずかしいから
・うまく言えないから
・明るい話をしたいから

現実の人間関係

マスク症候群



- 「安心するから」
「表情を見せたくないから」
「みんなが使っているから」
「印象を薄くするため」
「自分の存在を消したいから」
- ※ファッション、小顎効果、肌荒れ隠しも
- マスク使用の方が自尊心が低い
鬱(うつ)傾向が高い

現実コミュニケーション回避

- 先生が頑張りに気づいてくれないほど学力が低下(3倍)
- 親との会話が少ないほど自尊心(自己肯定感)が低下(3~6倍)
- 自尊心が低い、将来への意欲がないほど学力が低下

高校生を取り巻く状況は潜在化、複雑化 →大人の本気度が問われる

※全国高校生生活意識調査 (社)全国高等学校PTA連合会/木原雅子京都大准教授他調査・木原准教授講演資料より作成

高校生を取り巻く環境や生活意識について全国高校PTA連合会は2000年から、京都大学院の木原雅子准教授と共に研究で調査を続けています。20日の大会では木原准教授が調査結果を発表、ネット上で人間関係がつづられ、家庭内の日常会話の不足から始まる「現実の人間関係の希薄化」に警鐘を鳴らしました。大人による適切な環境づくりや大人自身の意識改革を訴える木原准教授に問題点や対策を聞いた。

(聞き手は報道部・中村有希)

木原 京都大学院准教授に聞く



青少年の健全育成に関する調査内容を発表する木原雅子京都大学院准教授

木原雅子氏(ぎはう、まきこ)京都大学院医学研究科准教授。会員学者分野准教授。肺がん研究などを経てエイズの疫学研究に参画。00年から青少年のエイズ予防教育に携わり、子どもの自尊心を引き出す授業を各地で展開。著書に「10代の性行動と日本社会」(ミネルヴァ書房など)、長崎県出身、61歳。

木原雅子氏(ぎはう、まきこ)京都大学院医学研究科准教授。会員学者分野准教授。肺がん研究などを経てエイズの疫学研究に参画。00年から青少年のエイズ予防教育に携わり、子どもの自尊心を引き出す授業を各地で展開。著書に「10代の性行動と日本社会」(ミネルヴァ書房など)、長崎県出身、61歳。

豊作の喜びを表現

岩泉高郷土芸能同好会
部長
加藤有希子さん(3年)

開会式前のアトラクションとして岩泉に伝わる郷土芸能「中野七舞(ななまい)」を披露した。部員たちと、笑顔と全身で豊作の喜びを表現しようと呼び掛け合って踊った。緊張もしたけど、自分たちの舞を楽しめた。お客様の心に少しでも残ってくれたらうれしい。

学習環境に格差も

大船渡高教論
赤崎琢哉さん(54)
PTAの方々と大会に参加している。岩手の子どもたちは素直で純朴な子が多いと感じるが、学力の面では課題も多く、関東と比べれば学習環境の格差もある。子や保護者、教員の学びに対する価値を高められる大会になればいい。全国の方には沿岸に来て復興の様子も体感してほしい。

もっと大人も勉強

沖縄県沖縄市
県立コザ高PTA副会長
森田好美さん(46)
高2の娘がいる。被災地の現状や、子どもを取り巻く情報化社会について、少しでも多くの情報を持ち帰りたいと参加した。ネットについては子どもたちの理解の方が早い。被害を防ぐには、大人たちが問題を詳しく勉強し、追いつくことが課題だと思う。

多くの発見届ける

花巻南高PTA会長
滝本昭信さん(52)
アピオで総合案内を担当した。昨年、福井大会に参加し、子どもたちの可能性を引き出したために背中を押す重要性など、多くの発見・収穫があり感動してきた。全国のPTA仲間にもその感動を届けたい。気持ちの良い滞在になるよう、今度は運営側として全力で支えたい。

岩手の良さをPR

総合案内役
斎藤裕美さん(53)
全国からのお客様を笑顔で迎えることを心掛けています。観光地ではなく地元の店舗を知りたいという来場者もあり、自分の店舗を紹介して会話を弾むなど心温まるつながりもできました。大会はもちろんだが、岩手の良さを感じ、満喫してもらうことで、来年の国体にも足を運んでほしい。

調査概要 企画・実施
普通科校3、専門または総合校2、合計45校の高校2年生にアンケートを昨年秋に実施。対象となるのは、男子3258人、女子3322人。回答を得た。調査は全国高校PTA連合会に分析された。